

せんりつのとくちょうを かんじとろう

日時：10月12日（金）第6校時
 学年：第3学年 19名
 指導者：小川 真里

糸崎小学校で育てようとする資質や能力及び態度

* は今年度の重点項目

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| ①課題発見・解決能力 | ②思考力・判断力・表現力 | ③コミュニケーション能力 |
| ④主体性・積極性 | ⑤回復力 | ⑥協調性・柔軟性 |
| | | ⑦自らへの自信 |

1. 単元について この単元は _____ 児童は _____

本単元は、小学校学習指導要領の音楽第3学年及び第4学年の内容A表現（1）歌唱ア「歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。」歌唱イ「曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。」を受けて設定している。

旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったりしたことを言葉で表すなどすることで、楽曲の特徴や演奏のよさに気づくことがねらいの単元である。また、旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫したり、歌詞の表す情景を思い浮かべたりしながら、思いや意図をもって表現する能力をのばすことのできる単元でもある。

音楽を楽しんでいる児童が94%いる。歌唱やリコーダー、リズム作りも意欲的に取り組む児童が83%いる。リコーダーのきれいな音色にあこがれをもち、進んで練習している児童が83%いる。しかし、歌唱については、好きだけど自分の声質に自信をもてないために大きな声で歌えなかったり、音程を気にして人前で歌うことに消極的になったりする児童が11%いる。

また、どの教科でも、与えられた課題に対して自分の考えを発表したり、友だちと協力して活動したりすることが好きな児童が76%いる。半面、深く考えることが苦手で、何度も同じ間違いをしてしまう児童や集中ができず解決の見通しを持ちにくい児童も18%いる。

指導の手立て

本単元の指導に当たっては、道徳参観日のゲストティーチャーにお礼の気持ちを歌で伝えることを目標に、どのように表現すると気持ちをつたえられるかについて単元導入で「質問づくり」を行う。まず歌唱「あの雲のように」、鑑賞「メヌエット」、器楽「山のポルカ」を学習した後、曲の特徴を捉えた旋律や歌詞の大切さを感じ、本単元のまとめである歌唱「ふじ山」の学習を行う。富士山の雄大な姿を現す歌詞が旋律の動きにも表れているため、イメージをもたせるために富士の写真を見せたり、歌詞を音読させたりし、様子を思い浮かばせて表現の工夫を考えさせる。また旋律の音の上がり下がりに目を向けさせ、曲の山を感じ取るために、旋律の動きに合わせて身体表現をさせる。その後、思考ツールを使い根拠を共有し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組めるようにする。どのように歌うかをグループごとに練習し、自分の思いを伝え合いながら、のびのびと歌うことができるようにする。写真を見て感じたことを発表させたり、身体を使って大きく表現させたりして、自分の思いを表現へつなげられるようにする。自分が感じたことを歌唱表現させることで自信を持たせたい。

2 単元目標と評価規準

観点	目標	評価規準
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くことができる。 ・ハ長調の楽譜を見て歌うことができる。 ・呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うことができる。 ・互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことができる。④⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。 ・ハ長調の楽譜を見て歌唱と演奏をしている。 ・呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌っている。 ・互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌っている。

思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> 曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。①⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱表現を工夫する手掛かりを曲の特徴から考え表現を作り出そうとしている。 このように歌いたいという考えをもっている。
学びに向かう力 人間性	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱表現をする中で、主体的に楽しく表現しようとする事ができる。④⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱表現などの活動を友だちと協力して進んでいる。 友だちの表現を模倣したり、友だちと違う表現を生み出したりして、表現の幅を広げている。

3 指導計画とルーブリック (本時 9/10 ※音楽10時間 学級活動1時間 道徳1時間)

次	時	学習活動	ルーブリック		資質	思考ツール
			S	A		
一	学級活動	ゲストティーチャーに感謝の気持ちを伝えるためにどのようなことができるか話し合う。単元を貫く学習課題を立て、質問づくりを行う。	Aに加え、大切な質問について、根拠をもとに説明している。	課題解決に必要な質問を複数考えている。	①	
二	1	「あの雲のように」(歌唱) 旋律の音の上がり下がりを感じながら、曲想に合う歌い方で歌う。	Aに加え、工夫の理由を友だちに説明している。	曲想にふさわしい表現の仕方をいろいろ工夫し試している。	⑤	理由づけする (クラゲチャート)
	2	「あの雲のように」(歌唱・器楽) 3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴を生かして演奏する。	Aに加え、自分たちの思いに合っているか考え演奏している。	3拍子の拍の流れにのり、旋律の特徴や違いを生かして、リコーダーを演奏している。	④⑦	
三	3	「メヌエット」(鑑賞) 旋律の音の上がり下がりやリズムに気を付けて聴く。	Aに加え、イメージしたことや感想を友だちに説明している。	楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。	④⑦	
	4	「メヌエット」(鑑賞) バイオリンの音色や楽曲全体を味わって聴く。	Aに加え、想像したことや感じ取ったことを言葉で説明している。	楽器に注目しながら旋律の特徴や曲想の変化を感じ取って聴いている。	④⑦	比べる (ベン図)
四	5	「山のポルカ」(器楽) アの旋律を演奏し、旋律の特徴や楽曲の構成を感じ取る。	Aに加え、アの旋律の演奏の工夫を友だちに説明している。	ハ長調の楽譜を読み階名唱ができる。アの旋律をリコーダーで演奏している。	①	
	6	「山のポルカ」(器楽) 旋律やリズムの特徴を聴き取り、運指や音色に気を付けてアとイの旋律を演奏する。	Aに加え、アとイの旋律の特徴に気づき、友だちに説明している。	イの旋律をリコーダーで演奏している。リコーダーの低い音の吹き方を理解し演奏している。	①④	比べる (ベン図)

	7	「山のポルカ」(器楽) 旋律の特徴の違いや曲のまとまりを感じ取りながら演奏する。	Aに加え、友だちの演奏の感想を根拠をもって発表している。	アとイの旋律の違いを感じながらリコーダーで演奏している。	⑦	評価する (PMI)
五	8	「ふじ山」(歌唱) 歌詞を音読したり、指導用CDを聴いたりして、様子を思い浮かべながら歌う。	Aに加え、思いや意図に根拠をもっている。	歌詞の内容や旋律の特徴から、思いや意図をもって歌っている。	⑤	広げる (イメージマップ)
	9	「ふじ山」(歌唱) 旋律の音の上がり下がり気をつけて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。	Aに加え、工夫の理由を友だちに説明している。	歌詞の内容や旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現になるような歌い方の工夫がわかり試している。	①④	理由づけする (クラゲチャート)
	10	「ふじ山」(歌唱) 発表会の練習をする。(のびやかな響きのある声で歌う。)	Aに加え、聞く人を意識して歌い、よりよい発表会になるように友だちと感想を出し合っている。	情景を思い浮かべ、曲の山の表現を工夫して歌っている。	⑦	評価する (PMI)
六	道徳	ゲストティーチャーに感謝の気持ちを込めて「ふじ山」を歌う。	Aに加え、友だちと声を合わせて旋律の特徴に気を付けながら発表している。	感謝の気持ちを込めて歌っている。	④⑦	

第九時

授業構成図

本時のねらい
旋律の音の上がり下がりに気を付けて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができる。
(課題対応能力) ★

目指す子どもの姿
S 曲想にふさわしい表現の根拠を友だちに説明している。
A 歌詞の内容や旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現になるような歌い方の工夫ができる。

振り返り場面

Aだと判断した子どもの姿

表現の工夫はできるが、自分の考えを友だちに根拠をもって説明できない。

深い学びの視点

- ① 既有知識を関連付けて考え、一階層上の知識を得る。
- ② 獲得した知識を汎用的に活用する。
- ③ 学習の目的を、より高い目的に価値づける。

見通しや実行方法を発想する場面

④ 班ごとに練習する。★

T 班で何に気を付けて歌うのか付箋に書いて、意識して練習しましょう。

C みんなで歌詞をもう一回読んでみよう。

C 「ふじは日本一の山」って大事だと思う。大事に歌おう。

C 大事って大きくってことかな。

C ドレミに合わせて手をつけてみよう。

C 一番高い音はドだね。手をいっぱい上にあげるようにドの時に大きくするのはどうかな。

C 突然大きくとちよつとおかしいよ。だんだん大きな声にしていったらどうだろう。

C グループ活動を助言しながら見守る。全員が考えられるように友だちの意見と自分の意見を比較させたり、様々な意見を実際に練習し思いを表現させたりするなど個別指導をする。

⑤ 全体で交流する。★

T 一班から今日の練習の成果を発表しよう。

留思考ツール「クラゲチャート」を使って表現の工夫を理由づけする。

T 全部の班を聴きましたね。みんな共通な歌い方は何だった。

C 盛り上げるところがあった。

T みんなの気持ちが一番盛り上がるるところを「曲の山」と言います。

⑥ 学習のまとめ・振り返りをする。

T 今日の振り返りをしましょう。

C 今日私はSでした。音が高くなったり低くなったりしていることを意識して班で練習するとき

にみんなに分かるように説明できましたし、それにこの曲にふさわしい歌い方になるようにたくさん考えることもできたからです。

対象と既有の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

課題を見出す場面

① 前時の振り返りをする。

T 「ふじ山」を歌いましょう。

T 元氣よく歌えましたね。

C 好きな曲だから、大きい声で歌った。

T 大きい声で元氣よく歌うことは大切ですね。歌を歌うときに気を付けるポイントは何かと思いませんか。

C きれいな声で歌うこと。

C 言葉を大切に歌うこと。

C いい高さで歌うこと。

C 息つぎの場所を守る。

T そうですね。たくさん大切なことがありますね。このポイントができるためにはどんな歌い方をしたらいいでしょう。

② 学習課題をたてる

歌詞や音の高さなどにあつた歌い方をしよう。

③ ループリックを設定する。

T 今日のループリックを設定しましょう。

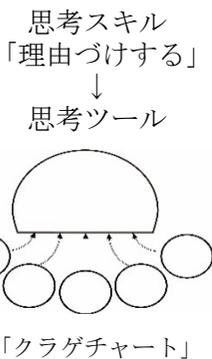
C わたしは、歌詞や音の高さにあつた歌い方ができたらAだと思えます。

C 僕は、Aプラス「こういう風

に歌いたいのはこういう理由だから」と説明できたらSだと思えます。

◆設定が難しい場合は、指導者が提示し、児童と共通理解をもって進める。

対象と既有の知識との「ズレ」を認識



()

